

---

## あかつき証券(株) 2023年3月期 決算説明

---

本資料は、2023年3月期決算の業績等に関する情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。  
本資料は2023年3月末日現在のデータに基づいて作成されております。なお、本資料で使用するデータ及び表現等の欠落・誤謬等につきましてはその責を負いかねますのでご了承ください。  
本資料に記載された意見や予測等は、資料作成時点の当社の判断であり、その情報の正確性、完全性を保証し又は約束するものではなく、また今後、予告なしに変更されることがあります。

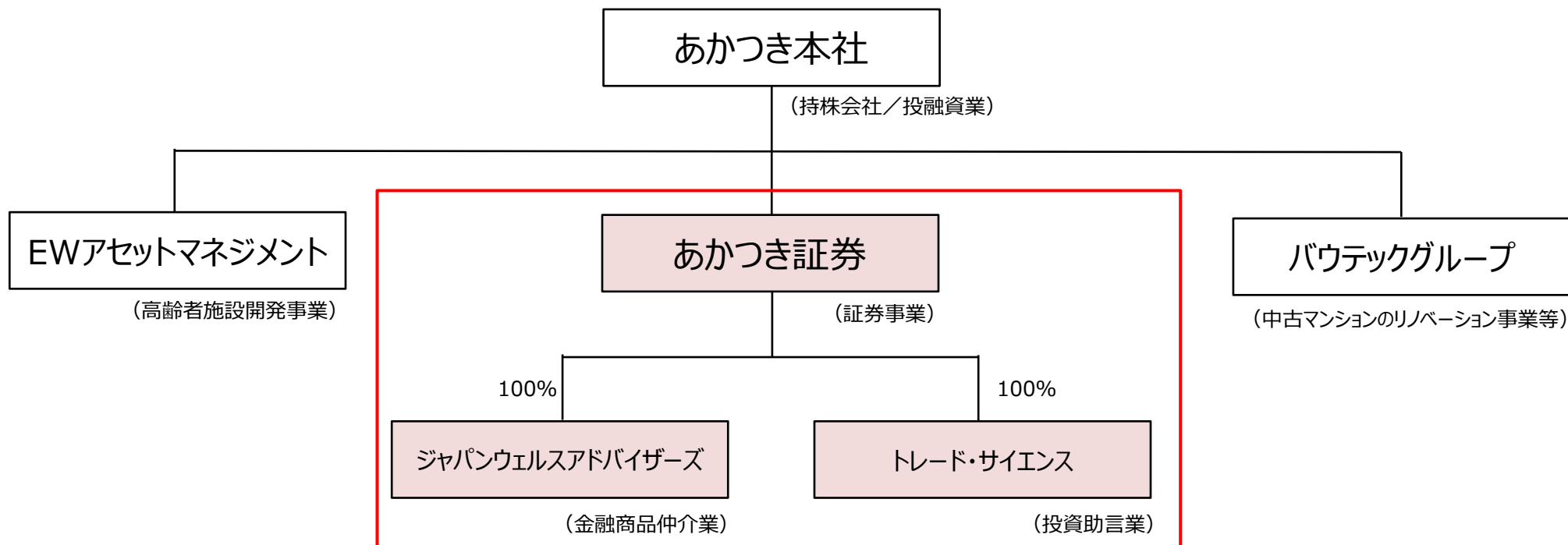
---

## 1. 2023年3月期 決算概要

---

## ◆ (参考) 連結対象について

### ■ あかつき本社グループ構成図 (2023年3月末現在、主要グループ会社のみ記載)



- ✓ 2020年3月に当社100%子会社「ジャパンウェルスアドバイザーズ株式会社」が金融商品仲介業者として営業活動を開始。
- ✓ 2021年2月にグループ会社の「トレード・サイエンス株式会社」を完全子会社化。

## ◆2023年3月期 決算の概要（連結ベース）

- ✓ 預り資産残高※は4,001億円（前期末比5.6%増）、IFA部門の預り資産残高は2,158億円（前期末比17.7%増）と過去最高となった。顧客からの入出金庫額（顧客から当社への入金と入庫の金額から、出金と出庫の金額を差し引いたもの）は813億円の純増と順調に増加している。また、契約仲介業者外務員数も1,447名（前期末比+262名）と増加した。
- ✓ 営業収益は9,593百万円（前期比19.6%減）となった。株券委託手数料および投資信託販売手数料の増加により受入手数料は3,681百万円（前期比40.8%増）となったが、債券販売額が減少したことによりトレーディング損益が5,847百万円（前期比36.8%減）となり、全体として減収となった。
- ✓ 販売費・一般管理費は9,392百万円（前期比18.3%減）となった。この内、IFAへの支払報酬など収益に連動して増減する変動費が6,352百万円と前期比23.8%減少し、固定費は3,039百万円と前期比3.9%減少した。
- ✓ 営業利益は175百万円（前期比55.8%減）、経常利益は205百万円（前期比50.3%減）、当期純利益は117百万円（前期比65.7%減）となった。

※ 預り資産残高は、当社の預り資産残高と、子会社のジャパンウェルズアドバイザーズ株式会社の提携金融機関における管理資産残高の合計となっております。

---

## 2. 2023年3月期 決算（連結）について

---

## ◆ 営業損益の状況

- ✓ 当社100%子会社の金融商品仲介業者であるジャパンウェルスアドバイザーズ株式会社、トレード・サイエンス株式会社を含む連結ベースでは、営業収益9,593百万円（前期比△2,333百万円 △19.6%）、営業利益175百万円（同△221百万円 △55.8%）、当期純利益117百万円（同△225百万円 △65.7%）となった。
- ✓ マーケット環境の低迷による影響を受けたが、外貨建債券や外国株式の取扱い銘柄数の拡充により収益構造の多様化を進めるとともに、継続的に広告宣伝費や販促費等の経費を見直した結果、第2四半期以降、営業利益は黒字となった。

（単位：百万円）

	2022年 3月期	2023年 3月期	前年同期比 増減率	前年同期比 増減額
営業収益	11,927	9,593	△19.6%	△2,333
純営業収益	11,899	9,568	△19.6%	△2,330
販売費・ 一般管理費	11,501	9,392	△18.3%	△2,108
営業利益	397	175	△55.8%	△221
経常利益	414	205	△50.3%	△208
特別損益	△3	△42	-	△38
税引前当期純利益	410	163	△60.2%	△246
法人税等合計	66	45	△31.8%	△21
当期純利益	343	117	△65.7%	△225

（単位：百万円）

2022年3月期				2023年3月期			
第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期
3,046	3,474	3,227	2,178	2,355	2,523	2,239	2,474
3,038	3,466	3,221	2,173	2,352	2,513	2,235	2,467
2,851	3,250	3,089	2,309	2,470	2,427	2,211	2,283
186	215	131	△136	△117	86	23	183
201	225	133	△145	△97	98	23	181
△3	-	-	-	△0	△0	△33	△7
197	225	133	△145	△97	97	△10	174
54	71	49	△108	△49	32	4	57
142	154	83	△36	△48	64	△15	116

## ◆受入手数料の内訳

- ✓ 受入手数料は、3,681百万円（前期比+1,066百万円 +40.8%）と増収となった。
- ✓ 株券委託手数料は、2,361百万円（同+608百万円 +34.7%）と増加した。募集・売出し手数料は、投資信託販売の増収（同+330百万円 +156.7%）により、670百万円（同+290百万円 +76.7%）と増加した。

（単位：百万円）

	2022年 3月期	2023年 3月期	前年同期比 増減率	前年同期比 増減額
受入手数料	2,614	3,681	40.8%	1,066

委託手数料の主な内訳				
株券	1,753	2,361	34.7%	608

募集・売出し手数料の主な内訳				
債券	156	123	△21.0%	△32
投資信託	210	540	156.7%	330

その他の受入手数料				
信託報酬	121	165	36.2%	44
アドバイザー報酬	9	23	141.1%	13

（単位：百万円）

2022年3月期				2023年3月期			
第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期
585	594	704	728	716	857	981	1,125

377	406	486	483	438	511	640	771
-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----

63	36	20	36	43	49	10	20
44	43	56	66	102	135	148	153

30	29	29	32	31	42	42	49
-	-	9	-	-	10	-	13

## ◆トレーディング損益の内訳

- ✓ トレーディング損益は、5,847百万円（前期比△3,405百万円 △36.8%）と減収となった。
- ✓ 債券販売高が減少したことで、債券トレーディング損益が5,442百万円（同△3,452百万円 △38.8%）となった。仕組債の販売体制の整備を進めた結果、仕組債の販売高が前期比△50.0%減少したのが主な要因。一方で、外貨建て債券は、取扱銘柄数の増加等により取引利便性を向上してきた結果、販売高は前期比119億円（同+220.0%）増加した。

（単位：百万円）

	2022年 3月期	2023年 3月期	前年同期比 増減率	前年同期比 増減額
株券	245	330	34.7%	85
債券・為替等	9,007	5,517	△38.7%	△3,490
（債券等）	8,895	5,442	△38.8%	△3,452
（為替等）	111	74	△33.3%	△37
合計	9,252	5,847	△36.8%	△3,405

（単位：百万円）

2022年3月期				2023年3月期			
第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期
86	61	78	19	29	39	55	205
2,360	2,802	2,427	1,416	1,597	1,607	1,186	1,125
2,315	2,781	2,399	1,399	1,578	1,589	1,176	1,097
44	21	28	17	18	17	10	28
2,446	2,863	2,505	1,436	1,627	1,646	1,242	1,330



## ◆部門別純営業収益推移

### 【リテール部門】

✓ 部門収益は1,972百万円(前期比△411百万円 △17.3%)の減収となった。主な内訳として、国内株券委託手数料が144百万円(同+18.7%)の増収、投信販売手数料が140百万円(同+409.1%)の増収となった。一方、債券トレーディング損益が616百万円(同△77.2%)の減収、外国株券トレーディング損益が82百万円(同△40.2%)の減収であった。

### 【IFA部門】

✓ 部門収益は7,316百万円(前期比△2,009百万円 △21.5%)の減収となった。契約IFA外務員数の増加に加えて、多様な商品を扱うIFA外務員を獲得した結果、国内株券委託手数料が429百万円(同+102.1%)の増収、投信販売手数料が189百万円(同+107.6%)の増収、外国株券トレーディング損益が240百万円(同+50.5%)の増収となった。一方、仕組債の販売基準の見直しを行った結果、債券トレーディング損益が2,998百万円(同△36.3%)の減収であった。

(単位：百万円)

	2022年 3月期	2023年 3月期	前年同期比 増減率	前年同期比 増減額
純営業収益計	11,899	9,568	△19.6%	△2,330
リテール	2,383	1,972	△17.3%	△411
IFA	9,326	7,316	△21.5%	△2,009
その他	189	279	47.6%	90

(単位：百万円)

2022年3月期				2023年3月期			
第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期
3,038	3,466	3,221	2,173	2,352	2,513	2,235	2,467
731	604	567	479	452	486	490	542
2,264	2,813	2,597	1,650	1,856	1,979	1,691	1,789
41	48	56	43	43	47	53	135

※IFA部門とリテール部門の内訳は、2022年4月の当社とジャパンウェルスアドバイザーズ株式会社との組織改編を反映しております。

## ◆販売費・一般管理費

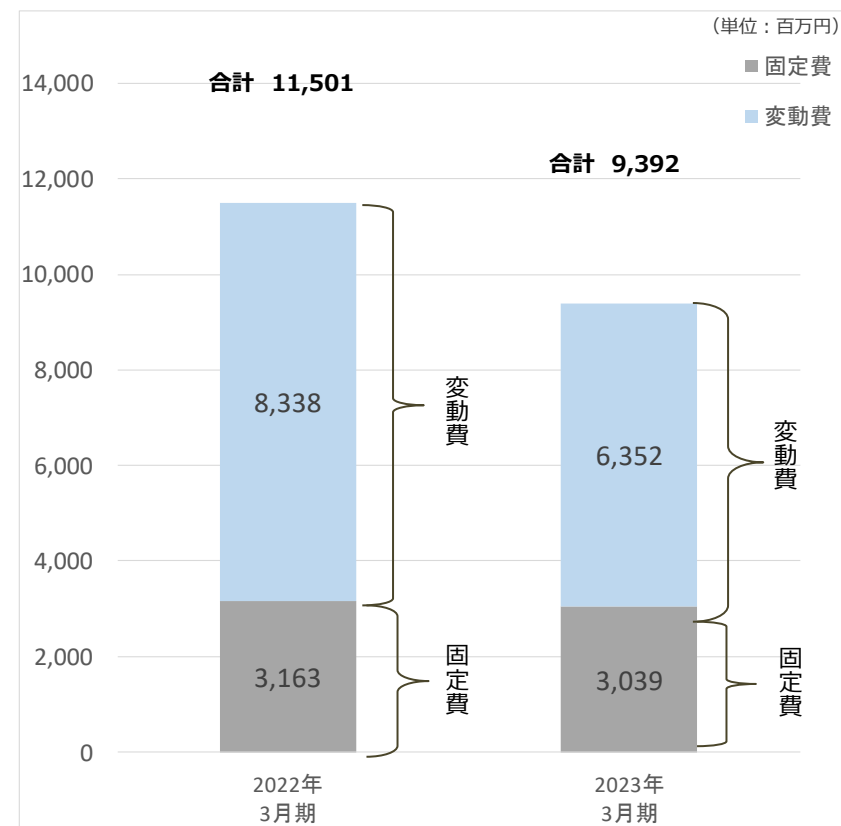
- ✓ 販管費は、9,392百万円（前期比△2,108百万円 △18.3%）と減少した。
- ✓ 固定費は横ばいとなる一方、IFAの支払報酬についてキャンペーン費用等を見直したことで、変動費が1,985百万円減少したことが主な要因。

（単位：百万円）

	2022年 3月期	2023年 3月期	前年同期比 増減率	前年同期比 増減額
取引関係費	7,681	5,798	△24.5%	△1,883
人件費	2,580	2,353	△8.8%	△227
不動産関係費	410	431	5.2%	21
事務費	611	576	△5.8%	△35
減価償却費	92	116	25.8%	23
租税公課	58	58	0.6%	0
雑費その他	65	57	△12.1%	△7
販売費・一般管理費計	11,501	9,392	△18.3%	△2,108

（単位：百万円）

	2022年 3月期	2023年 3月期	前年同期比 増減率	前年同期比 増減額
固定費	3,163	3,039	△3.9%	△123
変動費	8,338	6,352	△23.8%	△1,985



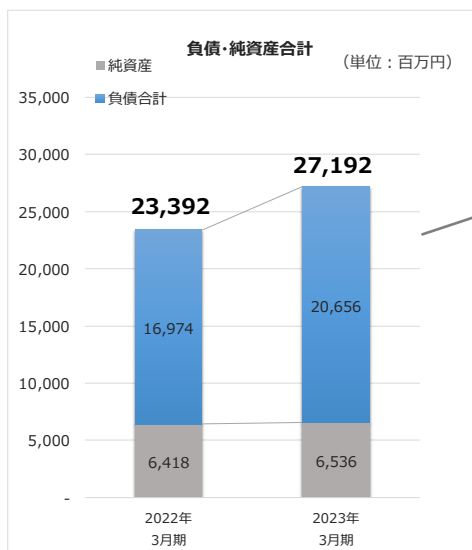
# ◆貸借対照表及び財務の状況

## 貸借対照表



### 流動資産+36億円

- 主な増減要因
- ・預託金の増加
  - ・信用取引資産の増加



### 流動負債+36億円

- 主な増減要因
- ・預り金の増加
  - ・信用取引借入金の増加

## 財務の状況

	2022年 3月期	2023年 3月期	前期比 増減
自己資本比率 (%)	27.4%	<b>24.0%</b>	△3.4%
1株あたり純資産 (円)	162.25円	<b>165.24円</b>	2.98円
自己資本規制比率 (%)	468.3%	<b>428.7%</b>	△39.6%

	2022年 3月期	2023年 3月期	前年同期比 増減
1株あたり純利益 (円)	8.70円	<b>2.98円</b>	△ 5.71円

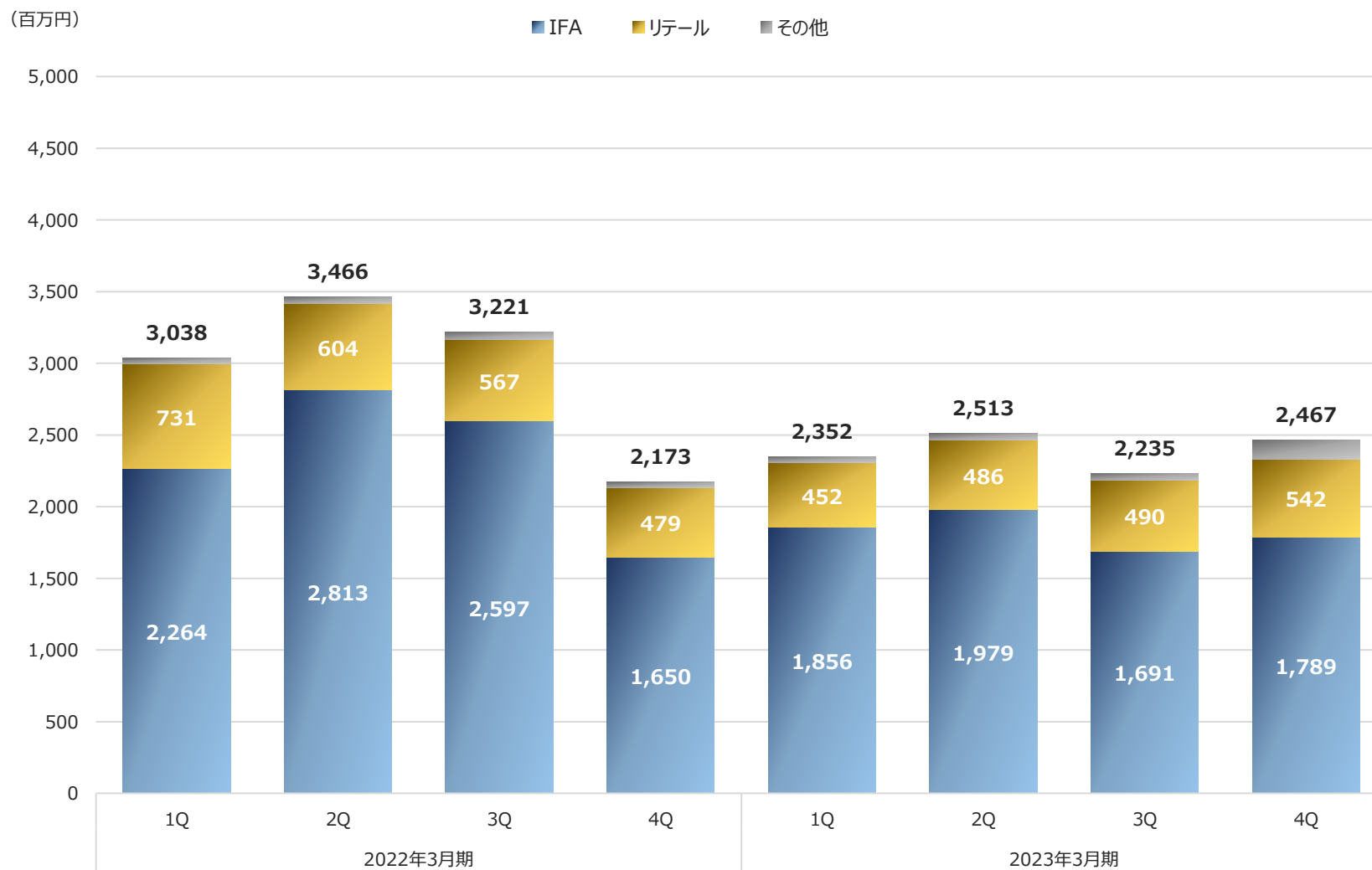
---

### 3. 業績の推移について

---

## ◆純営業収益の推移（部門別）

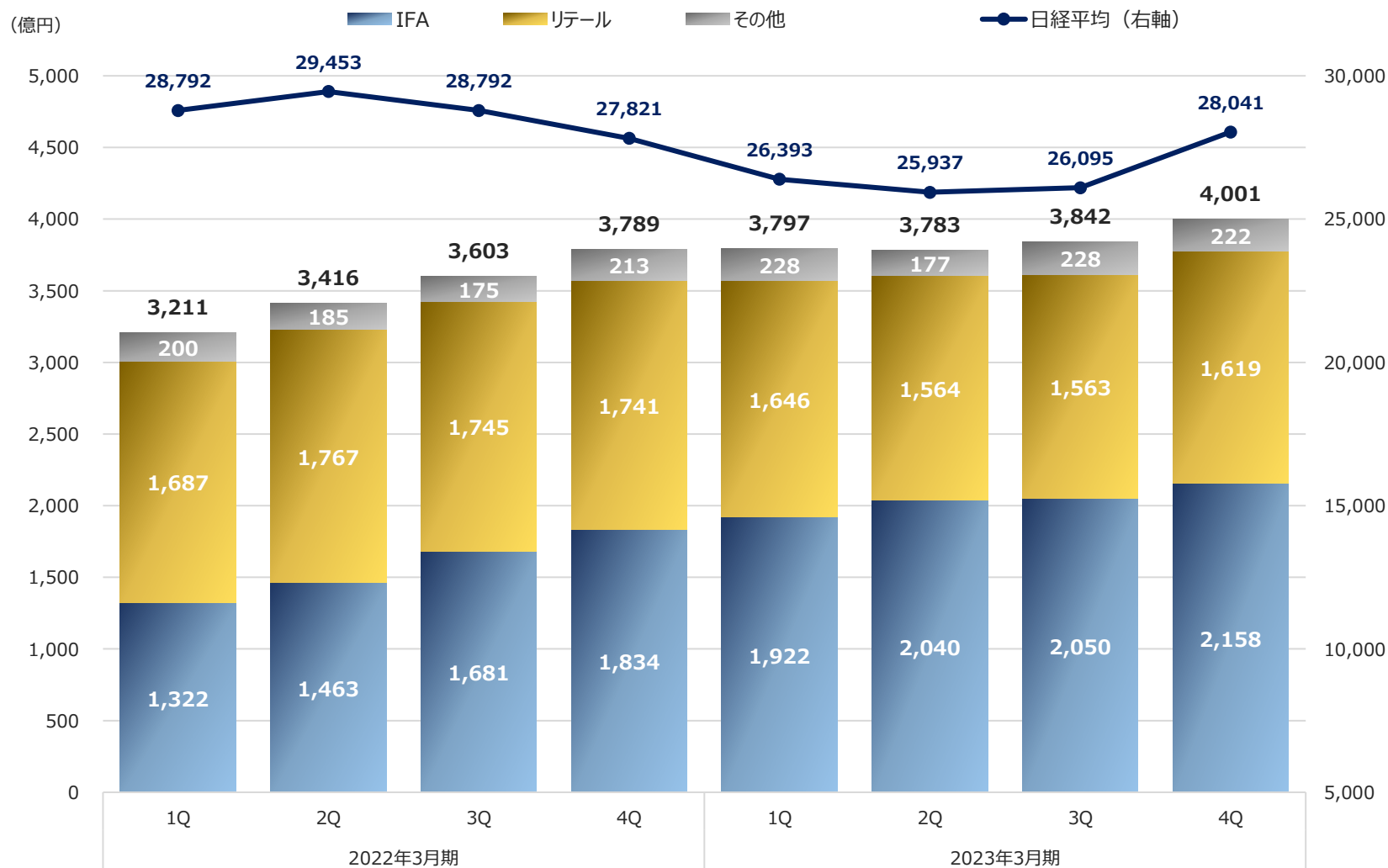
✓ 当第4四半期における当社の純営業収益は2,467百万円となり、前四半期に比べ増益となった。



※IFA部門とリテール部門の内訳は、2022年4月の当社とジャパンウェルスアドバイザーズ株式会社との組織改編を反映しております。

## ◆ 預り資産残高の推移（部門別）

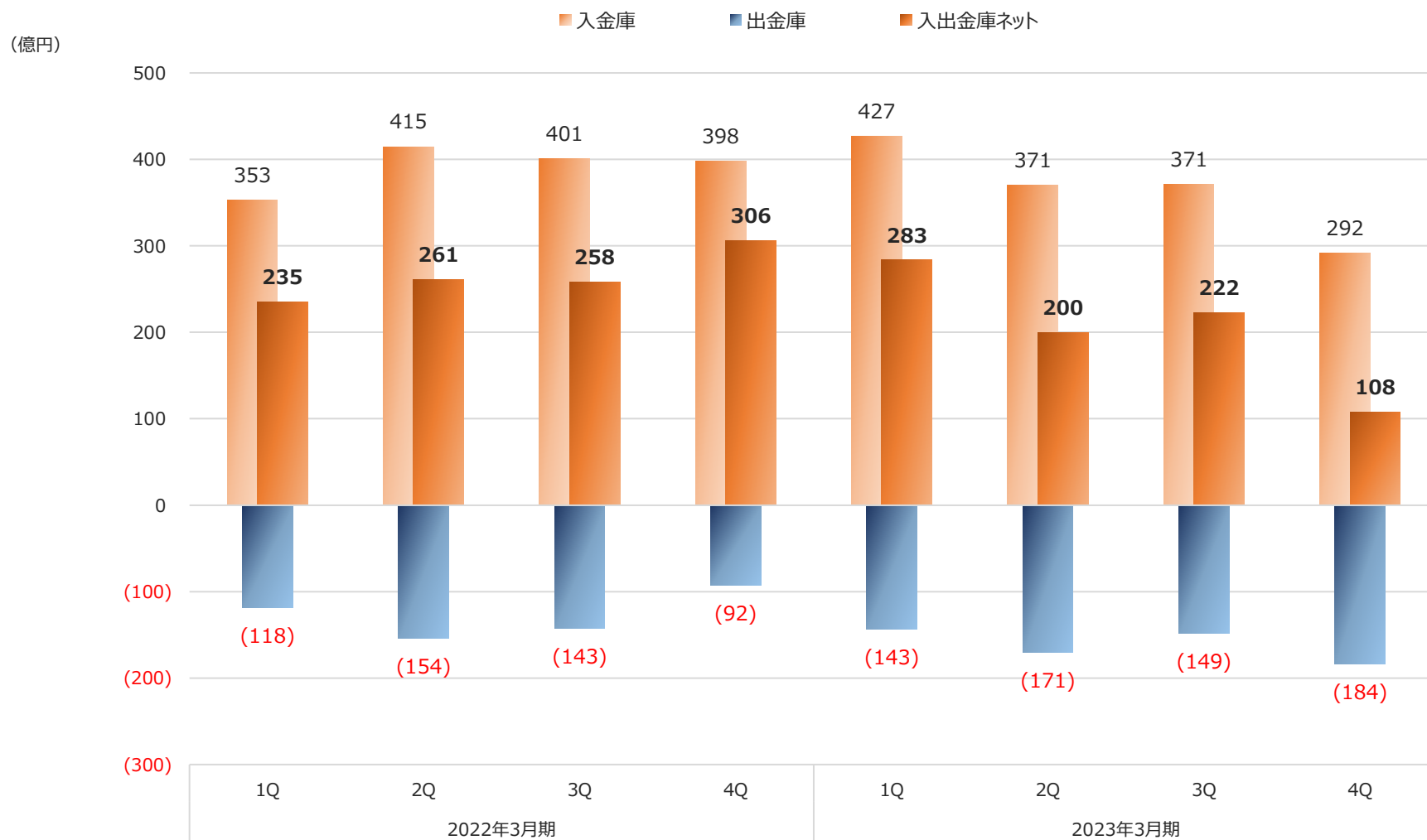
✓ 預り資産残高は、当社初の4,000億円を達成。IFA部門の伸びにより堅調に推移している。



※預り資産残高は、当社の預り資産残高と、子会社のジャパンウェルスアドバイザーズ株式会社の提携金融機関における管理資産残高の合計となっております。  
 IFA部門とリテール部門の内訳は、2022年4月の当社とジャパンウェルスアドバイザーズ株式会社との組織改編を反映しております。

## ◆入出金庫額の増加

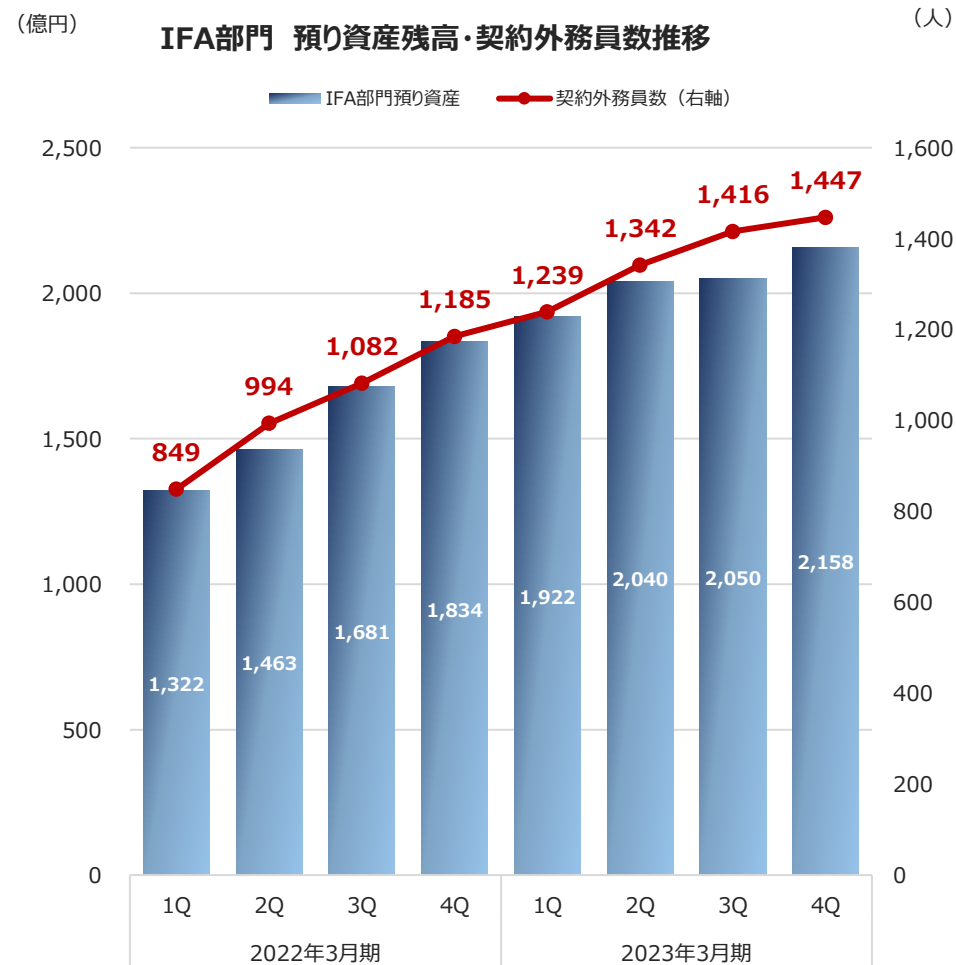
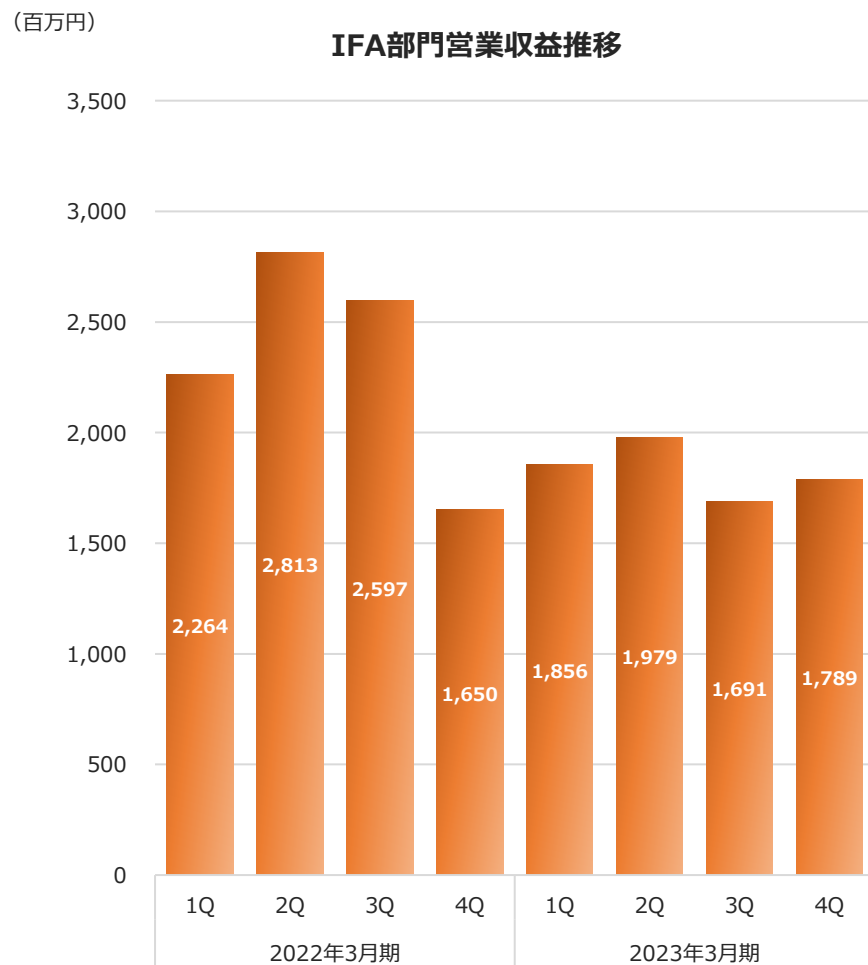
✓ マーケット環境の低迷により前期比で減少したものの、年間813億円の純増と堅調に推移している。



※顧客から当社への入金と入庫の金額から、出金と出庫の金額を差し引いたもの

## ◆金融商品仲介（IFA）ビジネスについて

- ✓ 当第4四半期のIFA部門の営業収益は1,789百万円。（前四半期比+98百万円 +5.7%）契約仲介業者外務員数は1,447名（同+31名）、IFA部門預り資産残高※は2,158億円（同+108億円）と順調に拡大している。

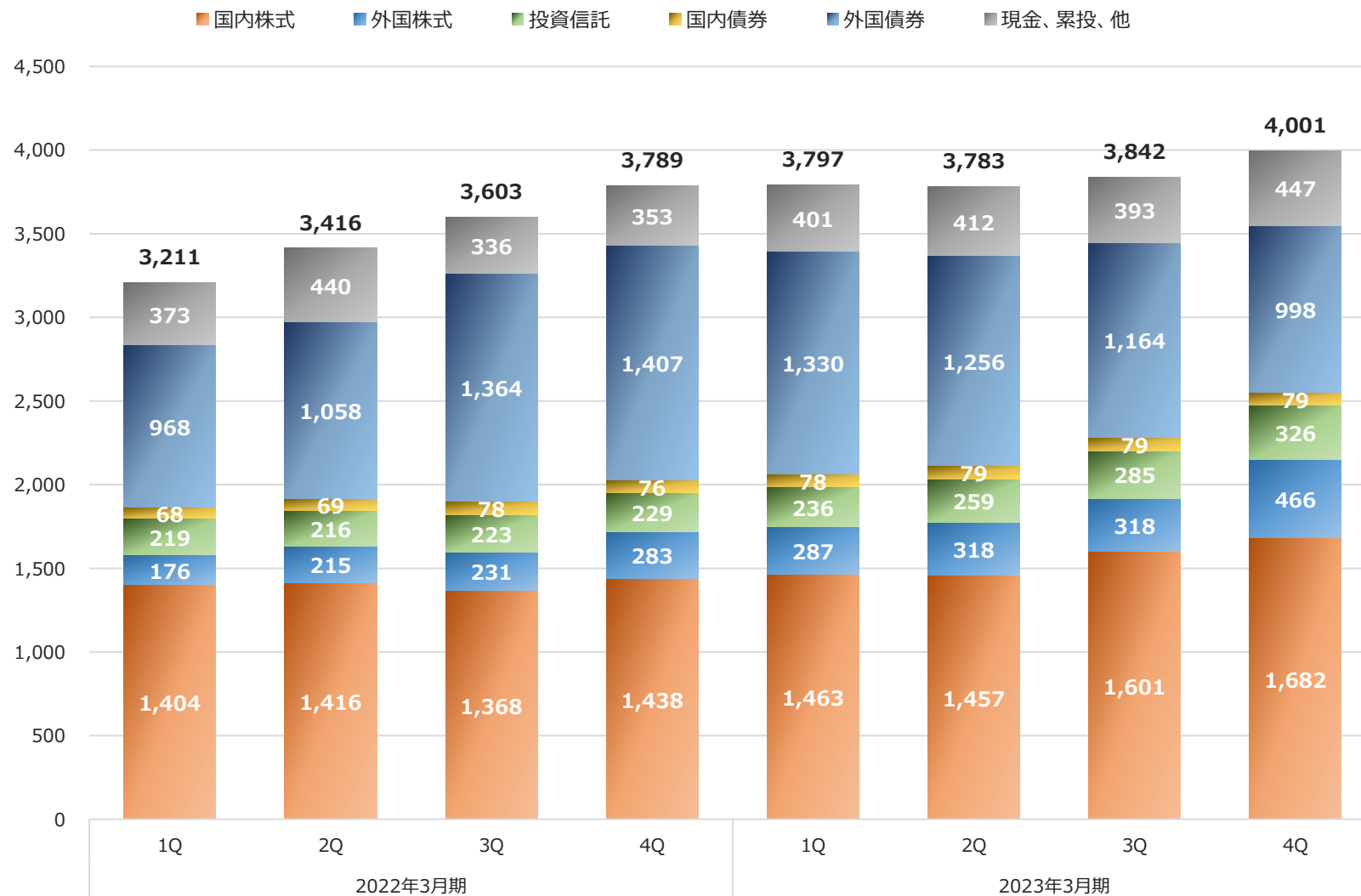


※預り資産残高は、当社の預り資産残高と、子会社のジャパンウェルズアドバイザーズ株式会社の提携金融機関における管理資産残高の合計となっております。  
IFA部門の実績は、2022年4月の当社とジャパンウェルズアドバイザーズ株式会社との組織改編を反映しております。



# ◆ 預り資産残高の推移 (商品別)

(億円)

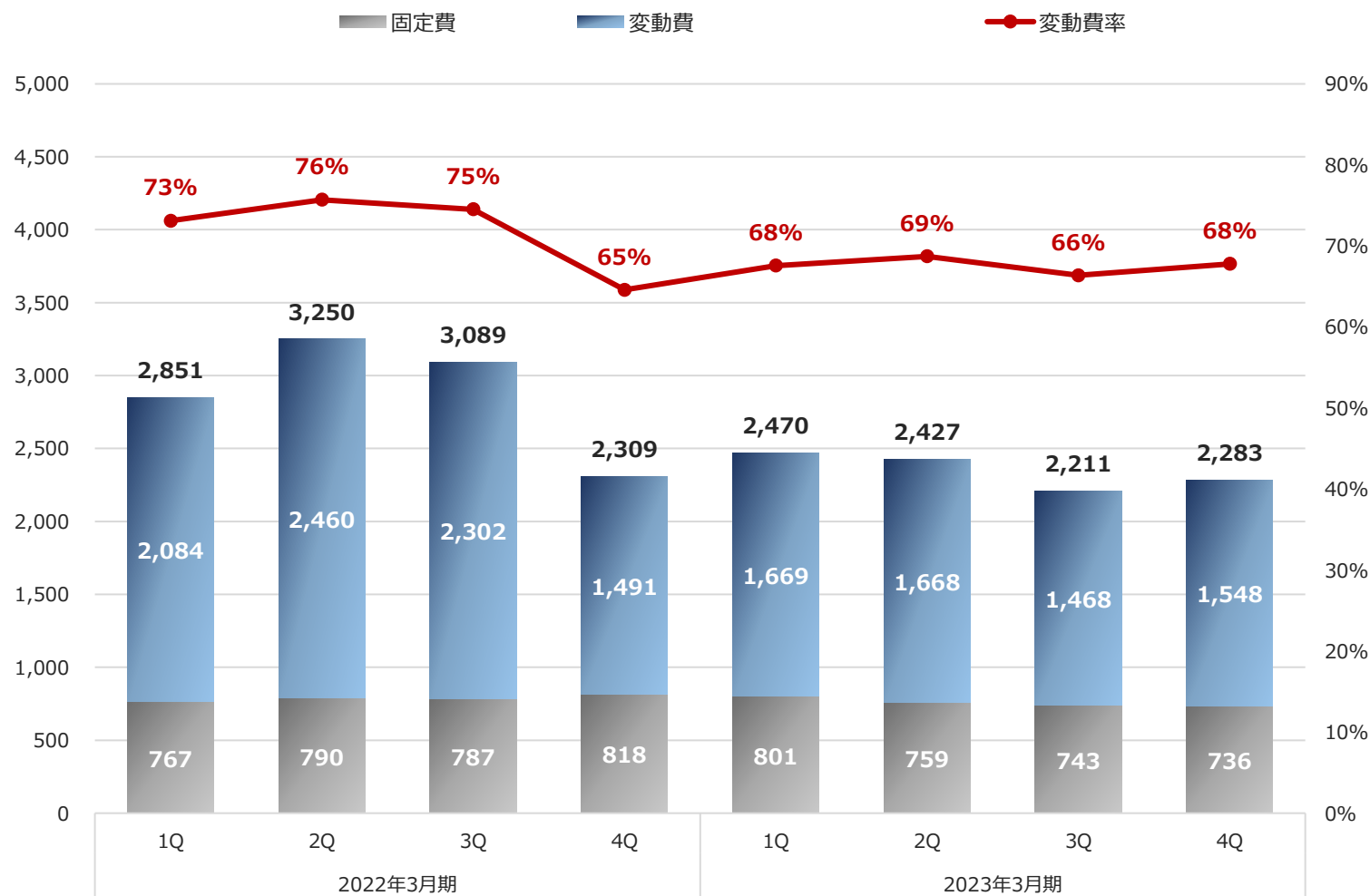


※預り資産残高は、当社の預り資産残高と、子会社のジャパンウェルズアドバイザーズ株式会社の提携金融機関における管理資産残高の合計となっております。

## ◆ 販管費及び変動費率の推移

✓ 当第4四半期における当社の販管費は2,283百万円となり、販管費に占める変動費率は68%と引き続き高水準を維持している。

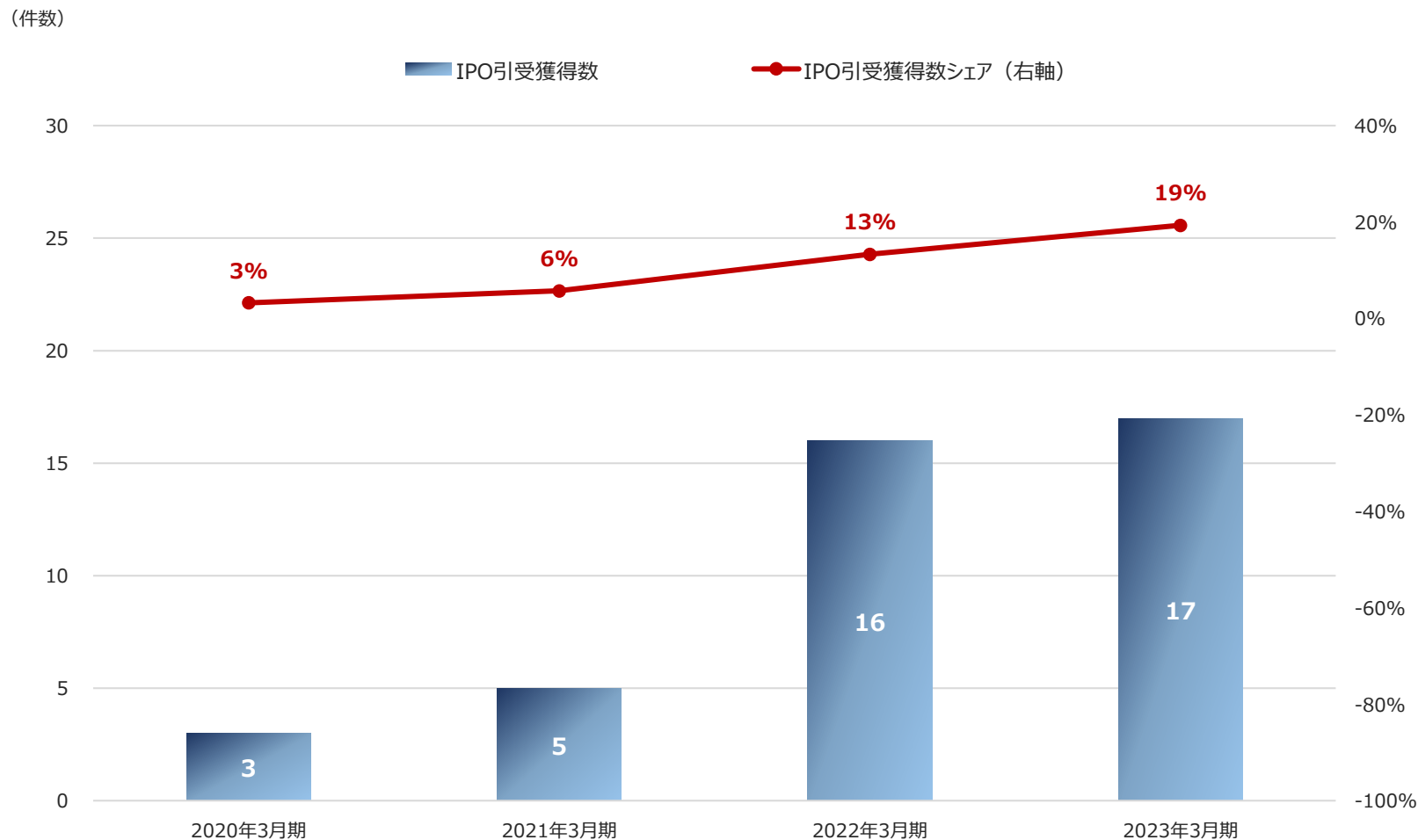
(百万円)



## ◆IPO市場への取り組み

### ➤ IPO市場での引受獲得数シェアの上昇

投資銀行部門はベンチャーファンドを通じたIPO展望企業へのシードマネーの供給や、独自の営業リレーションをつかって引受に参画。当期は市場全体でのIPO87社のうち当社獲得件数は17社、シェアは19%と前期比+6%上昇した。



## ◆2023年3月期 トピックス

### ➤ 新CRM（2022年10月）、IFA向けポータルサイト（2023年1月）全面リニューアル

当社営業員・提携IFA外務員が利用する顧客管理システム（CRM）及び当社提携IFA外務員向けポータルサイトを全面リニューアル。米国で高く評価されているアドバイザーソリューションである「アドバイゾン（Advyzon）」の日本展開を始めとして、IFA向けのサービス提供の知見が高いSCSK株式会社（東証プライム市場上場 9719）と提携しシステムを開発。当社提携IFAから細かなニーズをヒアリングし、利便性の高い顧客管理機能、文書管理機能や商品情報発信等、IFAプラットフォームとして提携IFA外務員がファイナンシャルアドバイス業務に専念できる環境を実現。

### ➤ 外国株式の取扱い銘柄拡充（2023年2月）

顧客の外国株式投資ニーズに対応するため、海外株式の取扱い銘柄を約2,000銘柄（※）に倍増した。

※米国株式（米国市場上場ETF含む）、欧州株式、香港株式の合計。

### ➤ 地域金融機関との業務提携を積極的に推進（2022年4月）

地域金融機関との金融商品取引に関する顧客紹介の業務提携を積極的に推進、4月に「関信用金庫（本店：岐阜県関市、理事長：櫻井広志）」、及び「芝信用金庫（本店：東京都港区、理事長：望月芳雄）」と提携し、今期2行の地域金融機関と提携契約を締結。

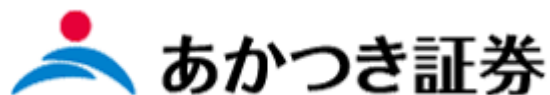
## ◆本資料に関して

---

本資料は、2023年3月期決算の業績等に関する情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。

本資料は2023年3月末日現在のデータに基づいて作成されております。なお、本資料で使用するデータ及び表現等の欠落・誤謬等につきましてはその責を負いかねますのでご了承ください。

本資料に記載された意見や予測等は、資料作成時点の当社の判断であり、その情報の正確性、完全性を保証し又は約束するものではなく、また今後、予告なしに変更されることがあります。



本 社：東京都中央区日本橋小舟町8-1  
商 号 等：あかつき証券株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第67号  
加入協会：日本証券業協会 一般社団法人金融先物取引業協会 一般社団法人日本投資顧問業協会

お問い合わせ先：あかつき証券株式会社 財務経理部  
TEL：03-5641-7800  
URL：<https://akatsuki-sc.com>